

この研究は、幼児の日常生活において見られる男女差が、いかなる要因にもとづくかを追求するため、彼らの集団を主体とする観察をおこない、その組成の成り立ちから男女差の本質をより深く追求することを試みた。

幼児集団の観察調査は広島市内の一保育所を対象におこない、その結果、次のような事実が得られた。

- (1) 幼児は集団を構成する傾向が大であり、それは在園時において著しい。
  - (2) 登園時に両性集団（男女混合集団）が多いのに比較して、在園時には同性集団（異性のまじらない集団）が多い。
  - (3) 集団構成の要因は、登園時において近所関係、在園時において友人（遊び友だち）関係が主である。
  - (4) 遊びを中心とした幼児集団は、同性によって構成されている場合が非常に多い。この事は遊びに対する興味に男女差のあることを示す。
  - (5) 一般に男児集団は女児集団に比較して、優位であり、女児集団の遊びの種類は男児集団の動きによって強く影響され、男女の遊びの種類は男女各集団の動的相互関係によって決定されている場合が多い。
- したがって、調査上の総合的集計値は、必ずしも彼らの遊びに対する興味の度合を示さず、また本質的な男女差をも示さない。すなわちそれらの調査結果は、いずれも両性の相互要因を含んだ結果であり、本質的な男女差の問題を究めるためには、今後相互要因を除いた同性のみの集団調査をも、なさなければならぬと思う。

## 積木遊びにおける

### 幼児集団の比較

東京・閃星幼稚園 清水エミ子

目的 一年目は自由に積木遊びに集まって来る幼児の性格と友だち関係と作品を、二年目は一年目と同じ方法で、二期の中頃から作品の題をあたえたり、積木のせいげんをしたりして、性格と、友だち関係、作品を比較してみた。その結果、適度の指示ならかえってよるこび、積木遊びが発展していったので、本年は入園当初から教師が交友関係と向性検査によって、(内向・外向・正常性の男女六名)意図的に二つの同質グループを作り、Aのグループに構成に対する暗示、部署や分担をきめたり、でき上った作品をほめたりし、一方、Bのグループは作品の題をあたえるだけにして積木遊びの①指導に對しての反応、②交友関係および持続時間、③作品について、を比較観察した。

結果 一学期、Aグループ。指導されることをいやがり、持続時間も短く作品も粗雑、友だち関係も外向性男児がかきまわしてしまい、交わりは持てない、しまいには課題されたものかんたんにつけてから自由なものを作るようになってしまった。BグループはAグループより課題をいやがらず、持続時間も長く作品ものびのびと作り友だち関係も外向性男児の話しかけてたのしく交われた。

二期、Aグループ。指導になれ、作品も立体的になり友だち関係も交わりは浅いが、内向性、正常児がリーダーになれるようになった。Bグループ。作品も立体的になったがAグループのまねが多く

友だち関係も内向性、正常児がリーダーがとれるようになったが、発展はなかった。

三学期、Aグループ。作品は立体的に大きくちみつに作り、中に何人も入って遊べる物（ゆめのあるもの）を作り、持続時間も三〜五日も長時間になり交わりもだれとでも深く交われ、特に内向性児は多くの友だちを上手にリードできるようにになった。Bグループ。ぎやぐに課題をいやがり、課題以外の物を貧弱に作り、持続時間も短く交わりも浅く貧弱でバラバラになって一学期とまったくぎやぐになってしまった。

考察 私の研究では指導したAグループの方が良い結果がでたが、いつでも指導した方が良いというのではないと思う。それは、①私は入園当初から指導したので指導になれたことと、②指導も課題をあたえたり構成に対する暗示や部署分担をきめ作品をほめたりと、あまり多く指導しなかったので強い抵抗を感じなかったのだと思うし、③見のがせない事は、幼児は指導にらくにのってくる時期があること。入園当初は指導にうまくなかったが、二学期中頃から指導にのり、集団でこみ入った作品ができた、友だち関係もゆづり合い協力し合えるようになってくる。この時期を逃さず適した指導をすると、作品も持続時間も友だち関係もすべて良くなるのだと思う。またBグループのように幼児にまかせっぱなしではすべてぶちこわれ、創造活動などできなくなってしまう。このように積木遊びでは一つの目標に向かって多くの幼児が劣等感を持たずに、協力して遊べるという他の活動にも見られない良い活動ができる。特に社会性のない幼児に正しい社会性を身につけさせるために、積木はなくてはならないものだと思う。この大切な積木遊びを正しく見つめ、より良い社会性をのばす場として用いたいと思う。

## ごっこ遊びについての一考察

東京・西桜幼稚園 鈴木正子

日常おこなわれているままごとあそびについて、子どもたちは家の人の役割をどのように認識し、どんなきまりで遊んでいるかを観察記録して、日常の保育に役立てたいと考えた。

ままごとあそびの母親の仕事进行分析してみたが、次の点を強調したいように思う。

① 家族愛 母が子をいたわるのみでなく子どもが母や老人をいたわる心を養っていききたい。② 家族の人に何か仕事をしてもらった時、自然と感謝の気持をあらわすようにしてやりたい。③ 子どもはの養育は、形だけ母親をまねた事が多いが、よい子どもにしたいという母親の願いをつたえていききたい。それで次のような方法を考えてみた。④ 環境をかえる。⑤ ままごとあそびの中の話題をとり話し合う。⑥ 役割の交替 立場をかえていろいろの役をする。⑦ 話、人形芝居をする。⑧ その役のしるしを用意する。

### ○母親の仕事进行分析

- ①料理、配膳、給仕、配分、食器の清潔、整頓（ごはん、菓子をつくる、食卓にならへる、食器を洗つてしまう）
- ②住宅の清潔手入れ（そうじ）
- ③家庭内の備品、家具の移動、整理、整頓（ままごとあそびの体裁を整える諸設備）
- ④被服の製作、洗濯、つくろい
- ⑤家族の健康管理（保健衛生、安全、身体の清潔）
- ⑥子どもの養護教育（叱る、本をよんでやる、赤ちゃんの世話）
- ⑦金銭に関する仕事（買物、配分、必要に応ずる）
- ⑧交際（ことはつかい、礼儀作法）
- ⑨家族愛（おみやげ）
- ⑩家の人に対する感謝の言動（ありがとう）
- ⑪生活管理（母が主になって、生活のきりもりをする）

以上のうち④と⑤は、私の叔のままごとあそびにみられなかった。